

12月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2011. 12. No. 45

自分の夢を叶えるため！ ～補習授業・農作業の取り組み～



授業中は集中！

皆さんこんにちは。カンボジアでは大変な洪水被害を出していた大雨がうそのように降らなくなり、いよいよ乾季が到来しました。水没していた道からは水が引いて、復旧作業をしています。毎日痛いほどの日差しと、カラカラに晴れた真っ青な空がまぶしく、カンボジアらしい気持ちのよい季節です。

さて、今回の Dream 通信では、園で行っている補習授業と農作業の様子、それから日本語授業の進捗についてお伝えします。

補習授業の様子

夢追う子どもたちの家では、子どもたちのために学校の勉強とは他に園での補習授業を行っています。学校の授業は2部制で、午前か午後どちらかしか授業がありません。子どもたちがもっと勉強して夢を叶えることができるように園でサポートしています。1日で、多い子どもは計10時間以上の勉強をしています。

園での生活は、毎朝7時に学校へ行き、11時に園に戻り、昼食をとります。午後1時から園での補習授業が始まります。補習授業は午後1時から5時まで、その後夕食をとり、必要な子どもは英語や日本語の授業を受けます。もっと英語を上手になりたい、また、将来日本語のガイドになりたいので今から日本語を勉強したいなど、子どもたちの希望に沿って授業を組んでいます。

補習授業では、学校の授業で分からなかったところも復習をしています。夜には、子どもたちだけで苦手な科目や宿題を持ち寄って、友達と一緒に教室で勉強しています。

「将来医者になってたくさんの人を助けたい」と真剣な顔で言う子どもたちをサポートするため、子どもたちが大きくなるにつれて、課題はたくさん出てきます。一番の年長の子どもはもう高校2年生になり、次は大学に行くことも視野に入れています。大学進学や就職支援など、今後子どもたちに新たなサポートが必要となってきます。私たちは、一人でも多くの子どもが自分の夢を叶えることができるように、精一杯努力をしています。



真剣にノートをとる



友達と英会話の練習



園内で落ち葉集め



重労働な薪割り



日本人職員と日本語を学ぶ



聞き取りや書き取りの練習

乾季での農作業

カンボジアでは11月に入り雨の降る日が減り、11月中旬にはもう全く雨が降らなくなりました。しかし雨が降らないということは、農業大国であるカンボジアにおいては厳しい季節の到来です。

園では農作業の時間を決めて、全ての子どもたちに農業の実習をさせています。農作業の時間は週に3日、1時間ずつグループに分かれて作業をします。子どもたちに農作業を教えていくことで、食べ物の大切さ、収穫の喜び、働くことの大切さを教えます。そして農業が将来の夢につながっている子どもはもちろん、全員が畑で自給できる力を身に付けていくのが目的です。

大きな木を小さく切って調理場で使えるようにする薪割り、園にいる30羽の鶏の巣作りや鶏糞集めをする鶏小屋掃除、園内の50m四方ほどの農園の手入れ、また園の裏にある2ヘクタールの土地での農園の手入れ、園内を清掃して落ち葉を集める仕事などがあります。

乾季の砂のように乾いた大地にはとても強い雑草が生えてきます。照りつける日差しの下、それを子どもたちで1つ1つ抜いていき、畑を作っています。子どもたちと職員全員で農作業をし、ともに汗を流して作業を進めます。そんな厳しい環境の中でも、がんばった成果として広い大地に作物の実がなります。園でとれた作物はもちろん調理して子どもたち全員で食べます。苦勞して育てた有機の野菜は本当においしく、食べ物のありがたさを感じさせてくれます。子どもたちも皆よく働き、心も体もたくましく育っています。

日本語授業

2010年12月より日本語授業を始め、1年が経ちました。子どもたちの中には進学して学校の履修科目が増え、ついていくのがやっとという状態の子どももいれば、『これは何というの？』『日本にはどんな食べ物があるの？』など、日本について興味津々の子どもも多くいます。授業では実際の日本の写真を使って、文化を学ぶこともあります。カンボジアでは生魚を食べる習慣がないので、寿司の写真を見て多くの子どもが顔をしかめていました。しかし、それでも日本には大きな魅力があるので、『将来必ず行く！』『将来は日本で働きたい！』と皆口々に言っています。

また、世界各地で行われている日本語能力試験がここカンボジアでも行われていると聞き、さっそく子どもたちに話しました。すると自信のある子どもたちは手を上げ、是非受けたいと名乗り出ました。1年勉強しただけの中学生には難しいかもしれませんが、今回受けて手ごたえを感じることができれば、もっと勉強して上のステップに進みたいというやる気に繋がるでしょう。子どもたちは決して休むことなく、毎日一所懸命に日本語を勉強しています。将来日本で活躍できる子どもがここから巣立っていくことを期待しています。